

おおきな台風が来た時(2019年台風19号)

2019年10月12日 最強クラスの台風19号が伊豆半島に上陸しました。被害は広い範囲に及び、100人近い人がなくなり、けがをした人も400人近くとなり、多摩川も大きな被害を受けました。特に、武蔵小杉や二子玉川などでは、町の中の排水ができない、内水面氾濫(ないすいめんはんらん)になり、電気やガスや水道が使えなくなり、多くの人がきびしい生活を送る事になりました。

写真/文 干潟館



台風19号のすぐあとの多摩川の様子(2019年10月12日から15日)



水が引いても泥だらけの六郷グランド



木が、なぎたおされて流れきた!



この高さまで水がきたよ!

10月12日 台風19号上陸のころの六郷橋



まっ茶色の多摩川 10月13日

このとき干潟館は臨時休館しました。家では、

- ・お風呂に水をためる(断水に備える)
- ・ご飯を炊く(お店がしまっても食料の確保)
- ・家のガラス窓をテープではる(暴風から守る)
- ・家族で相談する(ひなん場所、役割、など)
- ・貴重品や着がえ、救急品、水、毛布など準備

(私も近くの渡田中学校へ12日午後から家族でひなんしました)災害の準備しようね!

多摩川河口の汽水域 干潟でくらす生きものたち

多摩川が東京湾と出会う河口には「汽水」といわれる川の水と海の水が混ざりあう所があります。「汽水域」には運ばれてきた土砂がたまってできた「干潟」が発達し、そこにくらすゴカイやカニの仲間を求めて、春と秋の渡りの季節にはシギやチドリなどの仲間がやってきます。また冬になると オナガガモ、ヒドリガモ、キンクロハジロ、スズガモなどのカモの仲間やオオタカやハヤブサ、チュウヒ、ミサゴなどの猛禽類と、たくさんの野鳥がやってきます。

また干潮と満潮をくりかえす河口付近にはハゼやボラ、スズキ、コトヒキ、マルタウグイなど汽水域ならではの魚が多く暮らしています。

栄養分が豊かな干潟の周には、アシ原が発達し、ガマやイグサの仲間などが茂り、河口独特な景色を造り出しています。



干潮時、アシ原の中に現れた干潟。満潮になると魚を追って鳥たちがやってくる。(六郷干潟)

また多摩川は大きな街に隣接するため、水害を防ぐために堤防が造られていますが、河川敷が広く土手で囲まれているため、人の暮らしのすぐそばに豊かな自然の営みが共存しています。



春 河原ではハマダイコンの開花



潮が満ちてアシが水の中に



イセウキヤガラの中のバン



秋 オギが広がる河原



貴重となったウラギク

写真と文



大潮の干潮時の干潟(大師河原)

クロベンケイガニ

アシハラガニ

カニやゴカイなどの干潟の泥にすむ生きものを求めて、トビハゼや泥の上を長い足を使ってエサを探るシギやチドリの仲間、また魚や水草などを食べるカモなどの水鳥たちが集まります。



イソシギとスズガモ



絶滅が危惧されるトビハゼ



上空から魚を狙うミサゴ

干潟のカニたちの住み分け

ドロドロ水分の多い干潟が好きなヤマトオサガニ
やや乾いた干潟が好きなチゴガニ
土手や石の周りにたくさんいるクロベンケイガニ
石やごみの下などにはケフサイソガニ
アシ原が大好きなアシハラガニやベンケイガニなど
カニたちはゆるやかに住み分けて干潟でくらしています



ベンケイガニ



アシハラガニ



ヤマトオサガニ



チゴガニ



クロベンケイガニ



ケフサイソガニ



ひがたかんタイムズ

2025年 8月 5日発行 <第103号>

NPO 法人多摩川干潟ネットワーク 発行人: [REDACTED]

干潟歳時記 13 ハゼ釣りの季節

あつ〜い夏はまさにこれからですが、実は遠くに小さな秋の気配が、それはハゼ釣り。だってハゼ釣りは秋の季語。そのハゼ釣りの対象は「マハゼ」ですが、ハゼと言っても様々な種類があり、ハゼだけで一冊の図鑑があるほど。現在わかっている種類だけでも1500から2000種ほどが確認されているの事です(平凡社日本のハゼ より)

さてこのハゼ釣り、昔から東京湾周辺でも盛んに行われ、とくに川の河口やその周辺がよく釣れると、秋が近づくと今もたくさんの太公望(釣り人)が水辺に繰り出します。

マハゼは春先に生まれ、川底のゴカイや小さな生き物をどんどん食べて大きくなり、7月から8月になると釣りの対象サイズ「できハゼ」になります。

9月になると「彼岸ハゼ」。さらに、産卵のため深場に降りる頃になると「落ちハゼ」と名前を変えながら育っていき、やがて年を越し、早春に産卵して命をつなぎその一生を終えると言われています。

仕掛けはウキ釣りや脈釣り、エサはゴカイやアオイソメ(釣り具店で購入できます)。いたってシンプルな釣りですが思わぬ釣果が出ることも。是非一度チャレンジしてみたいはいかがでしょうか。

でも水辺はしっかりと安全を確保して、できれば特に子どもたちにはライフジャケットがあると安心ですね。



自分で釣ったよ！ハゼ釣り教室



包丁は真剣に！
さばき方教室で天ぷらに



マハゼ チチブ ボラ
干潟の魚たち

多摩川河口のハゼ釣りポイントは、

六郷水門付近	京急六郷土手駅 多摩川沿いに下流へ向けて徒歩約 15 分
殿町干潟岸壁	京急大師線小島新田駅前 409 号線を渡り多摩川方向へ徒歩約 15 分
大師河原	京急大師線東門前駅 409 号線を渡り多摩川方向へ徒歩約 10 分
六郷橋川崎側	京急大師線港町駅 北口下車 多摩川方向へ徒歩約 5 分

※ 釣りは水辺の危険にくれぐれもご注意ください、釣りをする岸壁は落ちると自力では上がれない場所がほとんどです。

できればライフジャケットを着用し、万が一水に落ちた場合に備えて、浮力体(浮き輪やフロートなど 同行者や近くの人に投げてもらう)を備えておくで安心です。

水防センター干潟館/だいし水辺の楽校 川崎市川崎区大師河原 1-1-15

開館 水木土日祝日 10時から16時 京急東門前駅徒歩7分

(409号線をわたり川崎大師祈禱殿うら多摩川方向へ)

電話 044-287-7882 Eメール 担当 [REDACTED]

2025 年度 だいし水辺の楽校 開校予定(8 月から 12 月)

2025 年		場所	時間	内容
8 月 31 日(日)	ハゼ釣り教室	近くの多摩川と干潟館	13 時から 15 時	ハゼ釣り教室と食育 釣れたらハゼをさばいて食べる
9 月 23 日(火) 秋分の日	ハゼ釣り教室	近くの多摩川と干潟館	13 時から 15 時	ハゼ釣り教室と食育 釣れたらハゼをさばいて食べる
10 月 19 日(日)	ハゼ釣り教室	近くの多摩川と干潟館	13 時から 15 時	ハゼ釣り教室と食育 釣れたらハゼをさばいて食べる
11 月 3 日(月) 文化の日	防災フェスタ	干潟館と周辺 (観察会は近くの河原)	10 時から 15 時	防災ブースがいっぱい 午前中は野草観察会で野草料理をつくるよ!
11 月 22 日(土)	自然観察会	多摩川の河原と干潟館	10 時から 12 時	晩秋の生き物観察 ハマダイコンを摘んで食べる
12 月 13 日(土)	ツル編み教室	干潟館と公園	13 時から 15 時	河原のクズツルでリースやかごづくり

※教室の内容や日時は自然条件その他の事情で変更/中止の場合があります。ご了承ください。

※参加受付は毎回開催日の一か月前からです。一回の定員は毎回 30 人。(先着定員です)

E メールで⇒ [] (イベント名を件名に記入) 担当 [] まで
代表者ご住所/連絡先携帯番号/必ず参加される方全員のお名前とご年令をご記入してください。
また、付き添い含め全員分の参加費が必要です。詳しくは HP をご覧ください。

※小雨実行ですが大雨/雪/台風など荒天は中止です。野外で活動しやすい服装で来て下さい。

※自然観察会、干潟観察会では運動靴や長ぐつ軍手帽子、飲み物、タオル持参で来てください。

お問い合わせ/お申し込み [] 検索⇒

干潟館 Tel 044-287-7882 (水木土日祝日 10 時から 16 時)

だいし水辺の楽校

※参加費 自然観察会/干潟観察会

中学生以上大人 500 円/小学生 300 円/3 歳以上児童は 200 円(未満無料)

ハゼ釣り教室

中学生以上大人 800 円/小学生 600 円/3 歳以上児童は 300 円(未満無料)

(小学 3 年生以下は保護者同伴、尚参加費はご家族など全員分が必要です) 校長 []

★水辺や野外では思わぬ危険があります。自身と子供たちの安全を確保して活動してください。

水防センター干潟館 川崎市川崎区大師河原 1-1-15(京急東門前駅下車多摩川方向へ徒歩 7 分)

だいし水辺の楽校のようす

ハゼ釣り教室は大人気



防災フェスタで太助がくるよ(予定)



12 月はツルでかごづくり



11 月は観察会で野草つみ



主催/NPO 法人多摩川干潟ネットワーク []